

令和2年 地域懇談会（東兎中学校区）

I 期日：令和2年11月18日（水）

会場：東兎市民センター

II 開会時刻：19時00分

閉会時刻：20時30分

III 会議内容

（教育次長）開会の前に鉾立地区の出席者の皆様に対しお断りをさせていただきたい。

すでにご承知のとおり、先日新聞報道された鉾立小学校の耐震補強の件である。鉾立小の耐震化については、木造校舎の外観にこだわらず耐震補強を進めることで、地元の合意が得られたところであるが、木造での耐震補強では、耐用年数や財政面から事業着手が難しい状況にある。今後は方向性や具体案が示せる段階になったら、改めて機会を設けて、鉾立小学校の保護者や住民に対し説明した上で進めていきたい。本日は、そのような質問があるかと思うが、まだ具体的な検討案が示せる段階にないため、ご容赦いただきたい。

1. 開 会

2. 説 明 （学校教育課長 教育総務課長より）

3. 質疑応答

（参加者）教育委員会の話を聞いて、改めて子どもたちが安心して学校に通えると感じた。鉾立小学校の耐震化について先送りになっているが、予定ははっきりしないのか。以前も鉾立公民館でいろいろと話をして、個人的には進んでいると思っていた。新聞を見て驚いたがどうか。

（参加者）改めて説明してくれるのであればいい。考えがあるのであれば、できるだけ早くこれからのあり方について説明してほしい。

（教育次長）29年、30年と2年かけて意見交換を地元の方でさせていただいた。30年の12月に市議会の総務文教委員会で耐震化についての方向性を出していた。翌年度の予算化を目指して動いていたが、実現できなかった。その翌年も要求したが、財政的な面でいい結果には結びつかなかった。このまま耐震化していない状態で児童を通わせることはどうかということで、それに変わる安全対

策について検討するということを市議会に報告したところである。安全対策の具体的な案ができ次第、可能な限り早めに説明したい。

（参加者）地域的に他と比べると不便なところもあるので、格差が気になる。教育委員会だけでなく、玉野市全体として連携して取り組んでほしい。

（参加者）５年生と６年生を東兎中学校で授業するというのがあるのではないかな。中学生もそれがいいと言っている。子どもの意見も大切にしてほしい。家で子どもに耐震化の話をしたら、何年も前に話したのと言っていた。地震はいつ来るかわからない。時間をかけても決まらないものは決まらない。建物が危ないのなら、外に出ることも大事。耐震化が一番ではなく、子どもの命が一番である。お金がかからない方法で考えてほしい。中途半端な耐震なら、しない方がいい。

（教育次長）貴重なご意見。今後の参考にさせていただきたい。

（参加者）地域の人と一緒に取り組んでいきたいという話が出たが、学校から今のところ依頼はない。遠慮なく声をかけてほしい。声をかけてもらえれば、いろいろなところに話はできる。協力できることは多いと思う。昔は、近所の人子どもたちを叱っていた。最近はそうではなくなった。子どもを叱ってもらえることはありがたいことなので、地域で育てていきたい。学校と地域の協力は大切なので、大いに活用してもらいたい。いつでも協力したい。

（教育長）ありがたい。学校にも伝えて地域といろいろと連携できればと思う。

（参加者）学校運営協議会について話があったが、会員でありながら分かっていないことが多かった。協議会の集まりの中で学校支援ボランティアの話題はあまり出てきていないので、会の進め方も見直しが必要なのではないか。そういった機会があればよい。キャリア教育について職場体験以外に、自分で創造する力を身に付けるために学校ではどんな取組をしているのか。

（学校教育課長）学校運営協議会については昨年からはじめて、やっと立ち上げたところである。今年度は数回会議をする程度になっていると思う。メンバーに学校支援ボランティアの方がいれば、連動していけるが、まだ組織的に動いていない現状がある。地域全体で計画的にできればいいが、コロナの影響でうまくいかず申し訳ない。引き続きお願いしたい。

今年度から学習指導要領が変わり、解のない問題を解いていく力も必要だと言われている。主体的・対話的で深い学びを目指して授業を行っている。地域の課題を見つけたり、地域を盛り上げる方法を考える活動も行われている。そうした活動を通して、自分たちで考え、作り上げていく、そして、新しいものを生み出していければと思っている。

（参加者）東児地区は地域愛が子どもの中にも育っている。地域格差のない教育政治をやってほしい。校舎改築についても、中断することを新聞で初めて知った。地域に相談がほしかった。今後も地域とともに考えていってほしい。お金がないのは分かるが、一刻も早く子どもたちの命を守れるようにしてほしい。

（参加者）青年部を中心に学校整備事業を行っているが知っているか。商工会が予算を組んで東児中学校区を回って環境整備を15年行っている。地域ではそんなこともしている。知っておいてほしい。

（教育長）ありがたい。議員からも話を聞いている。

（参加者）発達障害とはどの程度のレベルのものなのか。

（学校教育課長）100人いれば100人違う。知的障害だけでなく、自閉症など診断のある児童生徒数である。

（参加者）おさらい会をしているが、コロナ禍の中で回数が減ってきている。3年生には大切な取組だと思っている。この時期のつまずきは大変なことになると思うので、取りこぼしのないようにしてほしい。家に帰ってもなかなか教育を受けられていないこともあるのではないかな。ボランティアとしては頑張りたい。感染者が増えている現状で難しいが、教育は止まってはいけないと思う。今年度の3年生がつまずかないようにしてほしいと思うが、何か支援は考えているか。

（学校教育課長）おっしゃるとおりで、今年の子どもたちはかわいそうな面もある。教育委員会としては非常勤講師を配置して勉強につまずいている子を取り出して指導するなどの対応をしている。また、サポートスタッフを配置して学習も含めた支援を行っている。不審者対策で居残りをさせることが難しいが、地域の方と相談しながらやっていければと思う。今後の参考として学校に伝えていきたい。

（参加者）学校現場の若返り、教員不足の話があったが、教育委員会としてはどう考えているのか。

（学校教育課長）県教育委員会が教員を配置するので、県教委と話をしている。まずは、教員の魅力についてだが、時間外労働について取り上げられることが多く、採用試験の倍率も下がっている。教員になろうという人が少ないので、現場では働き方改革を進め、県では大学とも共同で教員の魅力について働きかけができるように動いている。

（参加者）先生の仕事はきついという風評被害があるが頑張してほしい。

- (参加者) GIGAスクール構想が進んでいるが、中にはついていくことができない子も出てくるのではないかと。家で教えられない家庭も多い。家庭でも使える力がないとどんどん遅れてしまう。子どもが家で操作ができるようにしてもらいたい。
- (参加者) 教員不足の話が出たが、教育は指導者と職員室の質で決まる。先生たちは忙しすぎてきりが無い。いくらでも仕事がある。待遇改善を考えて、職員室の質を上げてもらいたい。教育は指導者の質である。国の問題なので要望して欲しい。

4. 閉 会